

第96回 みんなで作る音楽会 報告

日時：2月11日 水曜日 13:15 から 16:20

場所：公民館 114室 2609

参加者：伊藤、北風、小林猛、塩路弘子、下中、庄司、清水、住本、田中、高塚、高濱、兵東、榎本、光長、山川三郎、山崎、安居院（記）計 17名

ウィーンフィルニューイヤーコンサートとNHK新年・オペラコンサート

1. ウィーンフィル ニューイヤーコンサート 2026

13:15-14:45

・指揮者は初登場のヤニック・ネゼ・セガン！

1975年カナダ出身の指揮者。アメリカのフィラデルフィア管弦楽団とメトロポリタン歌劇場の音楽監督を務める実力者。

ウィーン・フィルとの初共演は2010年のザルツブルク・モーツァルト週間。今回、初めてニューイヤーコンサートの指揮を務める。

ただしカナダ生まれという彼の来歴を考えると、この演奏会の指揮台に登る初の北米大陸出身者ということにもなり、単なる一指揮者の初登場という以上の意味合いを含んでいる。加えてネゼ=セガン

は、かねてから自身が同性愛的志向を持っていることを公言しクラシック音楽…特に指揮者の世界における固定化されたジェンダーやセクシャリティのあり方に一石を投じてきた。

となると2026年のニューイヤーコンサートには、人種やセクシャリティの壁を乗り越え、多種多様な人間のあり方を許す、“レインボー”な世界を目指そうというメッセージが読み取れはしないか。またそうしたメッセージが、伝統と格式を誇るウィーン・フィルによって、新たな年の始まりにあたって、高らかに奏でられようとしているのではないか。このオーケストラが、つい30年ほど前までは女性楽団員の入団を認めてこなかったことを考えると、文字通り隔世の感があるといえる。

・2026年の聞き所

今回の初登場曲は5曲。うち2曲は女性作曲家の作品。ヴァインリヒはヨハン・シュトラウスの時代に活動し、ヨーロッパで初の女性オーケストラを結成した。そしてもう一人、プライスは19世紀末に生まれたアフリカ系アメリカ人の作曲家だ。

指揮者のネゼ・セガンはプライスの作品を近年積極的に取り上げている。その他、曲名を見ても国際色豊かなプログラムになっている。

・現地スタジオには3人の素敵なゲストが登場。

俳優の中谷美紀さんはウィーン・フィルのピオラ奏者と結婚、日本とオーストリアを行き来し活動。

ヘーデンボルク直樹さんは、ウィーン・フィルの

チェロ奏者。バレエダンサーの三森健太朗さんは、2025年9月にウィーン国立バレエ団に入団し、プリンシパルを務めている。



・今回の特徴

2026年のニューイヤーコンサートで取り上げられるダンス音楽も、新たな姿をまとうて浮かび上がってくる。ワルツ「南国のバラ」にせよ「エジプト行進曲」にせよ、ダンス音楽を通じて様々な地と音楽親善をおこなったシュトラウスの活動があってこそ生まれたもの。遙かな地への憧れや異国情緒を豊かに湛えながらも、単にそれだけに終わらない、音楽を通じて世界を結び付けようとする姿勢が見えてくる。そしてそうした姿勢は、ウィーン・フィルが長年にわたって活動の重要な柱としてきた音楽文化交流のあり方とも、見事なまでに重なってくる。

となれば、ポルカ「外交官」や、ワルツ「平和の棕櫚（しゅろ）」といった作品が取り上げられるのも納得がゆくというもの。各地で紛争が起こり、世界全体にきな臭さが漂う昨今の情勢だからこそ、“レインボー”のごとく、多様性を認め合う世界を音楽の力を通じて作り上げようという思いが、今回のニューイヤーコンサートには脈打っている。

7 スuppe作曲 喜歌劇「美しいガラテア」序曲

8 ヴァインリヒ作曲／デルナー編曲 ポルカ・マズルカ「セイレーンの歌」★

ヨハン・シュトラウスと同時代に活躍した女性作曲家ヨゼフィーネ・ヴァインリヒ ウィーンで初となる女性だけのオーケストラを設立、指揮者として楽団を引き連れ欧米各地で演奏を行った。曲にある水の精セイレーンはその美しい歌声で水夫を魅惑する。

9 ヨーゼフ・シュトラウス作曲 ワルツ「女性の尊厳」

10 ヨハン・シュトラウス作曲 外交官ポルカ

感想；外交官に扮したダンサーが車から降りてきて、宮殿に入っていく。

外交文書がばらまかれたりして、役所の様子を表現していた。

バレエ：ウィーン国立バレエ団、**振り付け**：ジョン・ノイマイヤー、**衣装**：アルベルト・クリームラー
ホーフブルグ宮殿、この王宮は13世紀以降長らくハプスブルグ家の政治の中心として繁栄した。

11 プライス作曲／デルナー編曲 レインボー・ワルツ★

ヨハン・シュトラウスと同時代に活躍した女性作曲家ヨゼフィーネ・ヴァインリヒ ウィーンで初となる女性だけのオーケストラを設立、指揮者として楽団を引き連れ欧米各地で演奏を行った。曲にある水の精セイレーンはその美しい歌声で水夫を魅惑する。

12 ルンビー作曲 コペンハーゲンの蒸気機関車ギャロップ

感想；演奏では、汽笛やホイッスルなどが使われ、賑やか。打楽器奏者だけではなく、指揮者もホイッスルを吹いたりして盛り上げてくれた。終着点では指揮者が「止まれ」の札を挙げて聴衆の笑いを誘ったり、初めて聞いた曲であったが、充分楽しめた。

13 ヨハン・シュトラウス作曲 ワルツ「南国のバラ」

感想；イタリアを旅しているような感覚になる。

バレエ：ウィーン国立バレエ団、**振り付け**：ジョン・ノイマイヤー、**衣装**：アルベルト・クリームラー
街の中心部にあるウィーン応用美術館は多数の美術工芸品を誇る。皇妃エリーザベトが愛した「ウィーンのばら」は由緒ある工房が手掛ける磁器シリーズの一つ。

14 ヨハン・シュトラウス作曲 エジプト行進曲

感想；オリエンタルなメロディが流れ、異国情緒満点の行進曲であった。途中から楽団員の合唱もあって、とても面白かった。こんな曲楽しい曲もあったのだと感心した。

15 ヨーゼフ・シュトラウス作曲 **ワルツ「平和の棕櫚(しゅろ)」**

16. アンコール曲1. ポルカ・シュネル「サーカス」フィリップ・ファールバッハ作曲

アンコール1曲目はコンサート初登場のフィリップ・ファールバッハのポルカ、シュトラウス家と同時代に活躍し生涯およそ350曲の舞曲や行進曲を残した。

ポルカのリズムに乗せて響くむちの音がサーカスのにぎやかな雰囲気を出す。

冒頭は指揮者ネゼ・セガンからのご挨拶：ウイーン・フィルと私は世界のすべての人々に平和が訪れるようお願いを捧げます。平和を生み出すのは思いやりや違いを受け入れる優しさです。音楽が私たち全てを結びつけてくれますように、同じ星に生きているのですから！

ウイーン・フィルと私から、みなさま「新年あけましておめでとうございます」。

17. アンコール曲2. ワルツ「美しき青きドナウ」ヨハン・シュトラウス作曲

もともとは戦争に敗れて打ちひしがれた人々のためにヨハンが書いた合唱曲だった。「ウイーンっ子よ楽しく過ごせ」という歌詞で人々を力づけたこのワルツ今ではオーストリアの「第2の国家」と呼ばれ愛されている。

18. アンコール曲3. 「ラデツキー行進曲」ヨハン・シュトラウス（父）作曲

コンサートの最後を飾るのは父ヨハンが名将軍ラデツキーの勝利を祝って書いたこの曲。

<https://www.youtube.com/watch?v=ckKRuHqTkDE&list=RDLvRlpcUdqKI&index=2>

このビデオの2:20から会場から指揮台に戻ってくるときにヴィオラ奏者の首にキスをするシーンが。



ネゼ＝セガンの衣装はルイ・ヴィトンのクリエイティブ・ディレクター、ファレル・ウィリアムスによるデザイン。



最後のアンコール「ラデツキー行進曲」では、ネゼ＝セガンは平土間に登場して、総立ちの聴衆の中で指揮。ネゼ＝セガンの夫でヴィオラ奏者のピエール・トゥールヴィルも舞台上で演奏した。【ビデオ有】

2. 休憩 **14:50-15:00**

次回は、3月11日水曜日 13:15-16:00 @114室 3367 内容は未定

チケット予約受付

・4/16 (木) 15:00 開演 カルメン ハイライトコンサート 芸文・中ホール 1,000円

希望者；塩路2, 小林猛、高塚、田中、庄司、山崎、高濱、光長、北風、住本、安居院2

・6/10 (水) 18:30 開演 カルメン ワンコインレクチャー 芸文・中ホール 500円

希望者；北風、光長、高濱、山崎、住本小林猛2，塩路2、安居院

本公演：7/17（金）海外組 14:00 開演 芸文・大ホール C席 安居院2

本公演：7/18（土）国内組 14:00 開演 芸文・大ホール C席 9,000円 田中、庄司

本公演：7/23（木）国内組 14:00 開演 芸文・大ホール C席 安居院

2/26（木）に先行予約で購入予定です。

ほかにご希望があれば、2/23（月）までに連絡くだされば、受け付けます。A席 15,000円、B席 12,000円、C席 9,000円、D席 6,000円、E席 3,000円安い席は数が限られています。

3. ニューイヤー・オペラコンサート

15:00-16:00

第68回となる今回のテーマは「歌がえがく 心のかたち」——誰もが心に抱くさまざまな“思い”を鮮やかに描いた名曲の数々を、豪華歌手陣で華やかにお届けします。クラシック音楽の中でも屈指のドラマ性を誇る“オペラ”の魅力を、どうぞお楽しみください。

ミュージカル「オペラ座の怪人」から「Think of Me」「The Music of the Night」「The Phantom of the Opera」（ロイド・ウェバー） 森野美咲／大西宇宙／富貴晴美（編曲・ピアノ）ほか



ソプラノ

森野 美咲



バリトン

大西 宇宙



ピアノ・編曲者

富貴 晴美

歌劇「トゥーランドット」ハイライト（プッチーニ）

田崎尚美（トゥーランドット）／宮里直樹（カラフ）／中村恵理（リユー）／妻屋秀和（ティムール）／萩原潤（ピン）／与儀巧（パン）／菅野敦（ポン）／平野和（大官）／

合唱：新国立劇場合唱団、二期会合唱団、びわ湖ホール声楽アンサンブル、藤原歌劇団合唱部
ウエンツ瑛士（語り）／錦織健（台本）



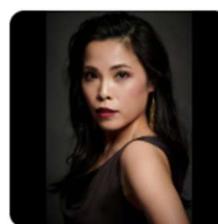
ソプラノ

田崎 尚美



テノール

宮里 直樹



ソプラノ

中村 恵理



バス

妻屋 秀和



バリトン

萩原 潤



テノール

与儀 巧



テノール

菅野 敦



バス・バリトン

平野 和



司会

ウエンツ 瑛士

喜歌劇「こうもり」から「ぶどう酒の燃える流れに」(ヨハン・シュトラウス)ソリスト全員
合唱：新国立劇場合唱団、二期会合唱団、びわ湖ホール声楽アンサンブル、藤原歌劇団合唱部



指揮
阪 哲朗



管弦楽
東京フィルハーモ
ニー交響楽団



司会
赤木 野々花 アナウン
サー

感想；素晴らしいの一言！

・ミュージカル「オペラ座の怪人」も、NHKホールならではのパイプオルガンによる怪人の重厚なテーマが流れ、一気にドラマに引き込まれた。

森野美咲と大西宇宙の歌唱力に吃驚。表現力が凄い。

いつもながらロイド・ウェーバーの曲も素敵だった。

・ダイジェスト版「トゥーランドット」も良かった。

ウエンツ瑛士の語りも、分かりやすくて良かった。

歌手陣も、それぞれに感動の歌唱であった。

カラフの宮里直樹は、背丈が少し低いのを除けば、立派なタターの王子であった。

殆どこのオペラの主役であるリュウの中村絵里の可憐な歌唱も心に迫った。

また、貫禄十分なトゥーランドット姫の田崎尚美も清涼充分でとても良かった。

ごちそうさまと言いたくなる出来栄え。

以上